

生命システム医学専攻

専門科目(生命システム)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
02EW401	分子医科学特論I	1	2.0	1・2	春ABC	応談	入江 賢児, 久武幸司, 西村 健, 七野 悠一, 大林 典彦, 榭 正幸, 高橋智, 武井 陽介, 小林 麻己人, 藤田 諒	生命現象の基本原理や疾患の病態生理について、分子レベル、細胞レベル、個体レベルでの解析で得られた最新の研究成果を発表の題材とし、研究内容に関する討論と総合的知識の講義を行う。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。 <ul style="list-style-type: none"> 分子生物腫瘍学(分子細胞生物学) 分子生物腫瘍学(遺伝子制御学) 分子生物腫瘍学(RNA生化学) 生理化学 分子神経生物学 解剖学・発生学 解剖学・神経科学 分子発生生物学 細胞工学 蛋白質代謝学 再生医学 	OBTNE11と同一。
02EW402	分子医科学特論II	1	2.0	1・2	秋ABC	応談	入江 賢児, 久武幸司, 西村 健, 七野 悠一, 大林 典彦, 榭 正幸, 高橋智, 武井 陽介, 小林 麻己人, 藤田 諒	生命現象の基本原理や疾患の病態生理について、分子レベル、細胞レベル、個体レベルでの解析で得られた最新の研究成果を発表の題材とし、研究内容に関する討論と総合的知識の講義を行う。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。 <ul style="list-style-type: none"> 分子生物腫瘍学(分子細胞生物学) 分子生物腫瘍学(遺伝子制御学) 分子生物腫瘍学(RNA生化学) 生理化学 分子神経生物学 解剖学・発生学 解剖学・神経科学 分子発生生物学 細胞工学 蛋白質代謝学 再生医学 	OBTNE13と同一。
02EW403	分子医科学演習I	2	2.0	1・2	春ABC	応談	入江 賢児, 久武幸司, 西村 健, 七野 悠一, 大林 典彦, 榭 正幸, 高橋智, 武井 陽介, 小林 麻己人, 藤田 諒	分子医科学分野に関する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、今後の課題について討論する。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。 <ul style="list-style-type: none"> 分子生物腫瘍学(分子細胞生物学) 分子生物腫瘍学(遺伝子制御学) 分子生物腫瘍学(RNA生化学) 生理化学 分子神経生物学 解剖学・発生学 解剖学・神経科学 分子発生生物学 細胞工学 蛋白質代謝学 再生医学 	OBTNE15と同一。

02EW404	分子医科学演習II	2	2.0	1・2	秋ABC	応談	入江 賢児, 久武 幸司, 西村 健, 大林 典彦, 榎 正幸, 高橋 智, 武井 陽介, 小林 麻己人	分子医科学分野に関する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、今後の課題について討論する。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・分子生物腫瘍学(分子細胞生物学) ・分子生物腫瘍学(遺伝子制御学) ・分子生物腫瘍学(RNA生化学) ・生理化学 ・分子神経生物学 ・解剖学・発生学 ・解剖学・神経科学 ・分子発生生物学 ・細胞工学 ・蛋白質代謝学 ・再生医学 	OBTNE17と同一。
02EW405	分子医科学実験実習I	3	2.0	1・2	春ABC	応談	入江 賢児, 久武 幸司, 西村 健, 七野 悠一, 大林 典彦, 榎 正幸, 高橋 智, 武井 陽介, 小林 麻己人, 藤田 諒	分子医科学に関連する各研究グループが、日々の研究において使用している実験手法やデータ収集・解析の方法とそれらの原理、注意すべき点などについて、実践的に学び、自ら施行しうようになることを目標とする。さらに、研究を進める上で各グループにおいて特徴的な「考え方」を修得する。I, IIでは異なる手法を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> ・分子生物腫瘍学(分子細胞生物学) ・分子生物腫瘍学(遺伝子制御学) ・分子生物腫瘍学(RNA生化学) ・生理化学 ・分子神経生物学 ・解剖学・発生学 ・解剖学・神経科学 ・分子発生生物学 ・細胞工学 ・蛋白質代謝学 ・再生医学 	OBTNE19と同一。
02EW406	分子医科学実験実習II	3	2.0	1・2	秋ABC	応談	入江 賢児, 久武 幸司, 西村 健, 七野 悠一, 大林 典彦, 榎 正幸, 高橋 智, 武井 陽介, 小林 麻己人, 藤田 諒	分子医科学に関連する各研究グループが、日々の研究において使用している実験手法やデータ収集・解析の方法とそれらの原理、注意すべき点などについて、実践的に学び、自ら施行しうようになることを目標とする。さらに、研究を進める上で各グループにおいて特徴的な「考え方」を修得する。I, IIでは異なる手法を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> ・分子生物腫瘍学(分子細胞生物学) ・分子生物腫瘍学(遺伝子制御学) ・分子生物腫瘍学(RNA生化学) ・生理化学 ・分子神経生物学 ・解剖学・発生学 ・解剖学・神経科学 ・分子発生生物学 ・細胞工学 ・蛋白質代謝学 ・再生医学 	OBTNE1Bと同一。

02EW411	システム統御医学特論I	1	2.0	1・2	春ABC	応談	<p>森川 一也, 水野聖哉, 沖田 結花, 里, 松原 大祐, 渋谷 和子, 小田 ちぐさ, 大根田 修, 三好 浩稔, 川口 敦史, ホー キョ ン, 小金澤 禎史, 山田 洋, 國松 淳, 熊田 博明, 榮 武 二, 磯辺 智範, 柳 沢 裕美, 木村 健 一, 広川 貴次, 水 谷 英二</p>	<p>ヒトの生命現象の制御機構や疾患の病理発生機序について、分子生物学的なアプローチを基盤として、個体、細胞レベルで理解することを目指した研究を行い、自らの最新の研究成果を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、システム統御医学の重要な課題に関する議論を行う。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染生物学(細菌学、分子ウイルス学、分子寄生虫学) ・モデル動物学 ・実験病理学 ・診断病理学 ・免疫制御医学 ・再生幹細胞生物学 ・医工学 ・神経生理学 ・認知行動神経科学 ・システム生理学 ・医学物理学 ・応用医学物理学 ・血管マトリクス生物学 ・幹細胞治療学 ・計算創薬 	OBTNE21と同一。
02EW412	システム統御医学特論II	1	2.0	1・2	秋ABC	応談	<p>森川 一也, 水野聖哉, 沖田 結花, 里, 松原 大祐, 渋谷 和子, 小田 ちぐさ, 大根田 修, 三好 浩稔, 川口 敦史, ホー キョ ン, 小金澤 禎史, 山田 洋, 國松 淳, 熊田 博明, 榮 武 二, 磯辺 智範, 柳 沢 裕美, 木村 健 一, 広川 貴次, 水 谷 英二</p>	<p>ヒトの生命現象の制御機構や疾患の病理発生機序について、分子生物学的なアプローチを基盤として、個体、細胞レベルで理解することを目指した研究を行い、自らの最新の研究成果を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、システム統御医学の重要な課題に関する議論を行う。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染生物学(細菌学、分子ウイルス学、分子寄生虫学) ・モデル動物学 ・実験病理学 ・診断病理学 ・免疫制御医学 ・再生幹細胞生物学 ・医工学 ・神経生理学 ・認知行動神経科学 ・システム生理学 ・医学物理学 ・応用医学物理学 ・血管マトリクス生物学 ・幹細胞治療学 ・計算創薬 	OBTNE23と同一。

02EW413	システム統御医学演習 I	2	2.0	1・2	春ABC	応談	<p>森川 一也, 水野聖哉, 沖田 結花里, 松原 大祐, 渋谷 和子, 小田 ちぐさ, 大根田 修, 三好 浩稔, 川口 敦史, ホー キョン, 小金澤 禎史, 山田 洋, 國松 淳, 熊田 博明, 榮 武二, 磯辺 智範, 柳沢 裕美, 木村 健一, 広川 貴次, 水谷 英二</p> <p>ヒトの生命現象の制御機構や疾患の病理発生機序について、分子生物学的な概念を基盤に個体、細胞レベルで理解し、疾患の予防・治療法の開発研究を行っている最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、課題について討論する。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染生物学(細菌学、分子ウイルス学、分子寄生虫学) ・モデル動物学 ・実験病理学 ・診断病理学 ・免疫制御医学 ・再生幹細胞生物学 ・医工学 ・神経生理学 ・認知行動神経科学 ・システム生理学 ・医学物理学 ・応用医学物理学 ・血管マトリクス生物学 ・幹細胞治療学 ・計算創薬 	OBTNE25と同一。
02EW414	システム統御医学演習 II	2	2.0	1・2	秋ABC	応談	<p>森川 一也, 水野聖哉, 沖田 結花里, 松原 大祐, 渋谷 和子, 小田 ちぐさ, 大根田 修, 三好 浩稔, 川口 敦史, ホー キョン, 小金澤 禎史, 山田 洋, 國松 淳, 熊田 博明, 榮 武二, 磯辺 智範, 柳沢 裕美, 木村 健一, 広川 貴次, 水谷 英二</p> <p>ヒトの生命現象の制御機構や疾患の病理発生機序について、分子生物学的な概念を基盤に個体、細胞レベルで理解し、疾患の予防・治療法の開発研究を行っている最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、課題について討論する。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染生物学(細菌学、分子ウイルス学、分子寄生虫学) ・モデル動物学 ・実験病理学 ・診断病理学 ・免疫制御医学 ・再生幹細胞生物学 ・医工学 ・神経生理学 ・認知行動神経科学 ・システム生理学 ・医学物理学 ・応用医学物理学 ・血管マトリクス生物学 ・幹細胞治療学 ・計算創薬 	OBTNE27と同一。

02EW415	システム統御医学実験 実習I	3	2.0	1・2	春ABC	応談	森川 一也, 水野 聖哉, 沖田 結花 里, 松原 大祐, 洪 谷 和子, 小田 ち ぐさ, 大根田 修, 三好 浩稔, 川口 敦史, ホー キョ ン, 小金澤 禎史, 山田 洋, 國松 淳, 熊田 博明, 榮 武 二, 磯辺 智範, 柳 沢 裕美, 木村 健 一, 広川 貴次, 水 谷 英二	ヒトの生命現象の制御機構や疾患の病理発生機序 について、分子生物学的なアプローチを基盤とし て、個体、細胞レベルで理解することを目指した 研究を行い、自らの最新の研究成果を発表し、研究 結果と今後の研究方針に関する討論を行うととも に、システム統御医学の重要な課題に関する議 論を行う。I, IIでは異なる手法を習得する。 ・感染生物学(細菌学、分子ウイルス学、分子寄 生虫学) ・モデル動物学 ・診断病理学 ・実験病理学 ・免疫制御医学 ・再生幹細胞生物学 ・医工学 ・神経生理学 ・認知行動神経科学 ・システム生理学 ・医学物理学 ・応用医学物理学 ・血管マトリクス生物学 ・幹細胞治療学 ・計算創薬	0BTNE29と同一。
02EW416	システム統御医学実験 実習II	3	2.0	1・2	秋ABC	応談	森川 一也, 水野 聖哉, 沖田 結花 里, 松原 大祐, 洪 谷 和子, 小田 ち ぐさ, 大根田 修, 三好 浩稔, 川口 敦史, ホー キョ ン, 小金澤 禎史, 山田 洋, 國松 淳, 熊田 博明, 榮 武 二, 磯辺 智範, 柳 沢 裕美, 木村 健 一, 広川 貴次, 水 谷 英二	ヒトの生命現象の制御機構や疾患の病理発生機序 について、分子生物学的なアプローチを基盤とし て、個体、細胞レベルで理解することを目指した 研究を行い、自らの最新の研究成果を発表し、研究 結果と今後の研究方針に関する討論を行うととも に、システム統御医学の重要な課題に関する議 論を行う。I, IIでは異なる手法を習得する。 ・感染生物学(細菌学、分子ウイルス学、分子寄 生虫学) ・モデル動物学 ・診断病理学 ・実験病理学 ・免疫制御医学 ・再生幹細胞生物学 ・医工学 ・神経生理学 ・認知行動神経科学 ・システム生理学 ・医学物理学 ・応用医学物理学 ・血管マトリクス生物学 ・幹細胞治療学 ・計算創薬	0BTNE2Bと同一。
02EW421	ゲノム環境医学特論I	1	2.0	1・2	春ABC	応談	野口 恵美子, 川崎 綾, 村谷 匡史, 尾 崎 遼, 大庭 良介, 高橋 遥一郎, 安梅 勅江, 狩野 繁之, 高橋 宜聖, 笹原 信一朗, 中山 祥嗣	疾病要因としての遺伝要因、環境要因およびそれ らの相互作用、生体の環境適応とその医学的意義 に関連する自らの最新の研究成果を発表し、研究 結果と今後の研究方針に関する討論を行うととも に、ゲノム環境医学の重要な課題に関する議論を 行う。授業は研究グループ単位で行い、学生は自 らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数 のグループの授業に出席する。I, IIでは異なるト ピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外 のグループとして、I, IIで異なるグループを選択 することができる。 ・遺伝医学 ・ゲノム生物学 ・パイオインフォマティクス ・環境医学(産業精神医学・宇宙医学) ・健康情報総合学 ・法医学 ・国際発達ケア:エンパワメント科学 ・国際医療学 ・医学ウイルス学	0BTNE31と同一。

02EW422	ゲノム環境医学特論Ⅰ	1	2.0	1・2	秋ABC	応談	野口 恵美子, 川崎 綾, 村谷 匡史, 尾崎 遼, 大庭 良介, 高橋 遥一郎, 安梅 勅江, 狩野 繁之, 高橋 宜聖, 笹原 信一朗, 中山 祥嗣	<p>疾病要因としての遺伝要因、環境要因およびそれらの相互作用、生体の環境適応とその医学的意義に関連する自らの最新の研究成果を発表し、研究結果と今後の研究方針に関する討論を行うとともに、ゲノム環境医学の重要な課題に関する議論を行う。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝医学 ・ゲノム生物学 ・バイオインフォマティクス ・環境医学(産業精神医学・宇宙医学) ・健康情報総合学 ・法医学 ・国際発達ケア:エンパワメント科学 ・国際医療学 ・医学ウイルス学 	OBTNE33と同一。
02EW423	ゲノム環境医学演習Ⅰ	2	2.0	1・2	春ABC	応談	野口 恵美子, 川崎 綾, 村谷 匡史, 尾崎 遼, 大庭 良介, 高橋 遥一郎, 安梅 勅江, 狩野 繁之, 高橋 宜聖, 笹原 信一朗, 中山 祥嗣	<p>疾病要因としての遺伝要因、環境要因およびその相互作用、ならびに、生体の環境適応とその医学的意義に関連する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝医学 ・ゲノム生物学 ・バイオインフォマティクス ・環境医学(産業精神医学・宇宙医学) ・健康情報総合学 ・法医学 ・国際発達ケア:エンパワメント科学 ・国際医療学 ・医学ウイルス学 	OBTNE35と同一。
02EW424	ゲノム環境医学演習Ⅱ	2	2.0	1・2	秋ABC	応談	野口 恵美子, 川崎 綾, 村谷 匡史, 尾崎 遼, 大庭 良介, 高橋 遥一郎, 安梅 勅江, 狩野 繁之, 高橋 宜聖, 笹原 信一朗, 中山 祥嗣	<p>疾病要因としての遺伝要因、環境要因およびその相互作用、ならびに、生体の環境適応とその医学的意義に関連する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、問題点、残された課題について討論する。授業は研究グループ単位で行い、学生は自らが研究指導を受ける研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝医学 ・ゲノム生物学 ・バイオインフォマティクス ・環境医学(産業精神医学・宇宙医学) ・健康情報総合学 ・法医学 ・国際発達ケア:エンパワメント科学 ・国際医療学 ・医学ウイルス学 	OBTNE37と同一。
02EW425	ゲノム環境医学実験実習Ⅰ	3	2.0	1・2	春ABC	応談	野口 恵美子, 川崎 綾, 村谷 匡史, 尾崎 遼, 大庭 良介, 高橋 遥一郎, 狩野 繁之, 高橋 宜聖, 中山 祥嗣	<p>ゲノム環境医学に関連する各研究グループが、日々の研究において使用している実験手法やデータ収集・解析の方法とそれらの原理、注意すべき点などについて、実践的に学び、自ら施行しうるようになることを目標とする。さらに、研究を進める上で各グループにおいて特徴的な「考え方」を修得する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なる手法を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝医学 ・ゲノム生物学 ・バイオインフォマティクス ・健康情報総合学 ・法医学 ・国際医療学 ・医学ウイルス学 	OBTNE39と同一。

02EW426	ゲノム環境医学実験実習II	3	2.0	1・2	秋ABC	応談	野口 恵美子, 川崎 綾, 村谷 匡史, 尾崎 遼, 大庭 良介, 高橋 遥一郎, 狩野 繁之, 高橋 宜聖, 中山 祥嗣	ゲノム環境医学に関連する各研究グループが、日々の研究において使用している実験手法やデータ収集・解析の方法とそれらの原理、注意すべき点などについて、実践的に学び、自ら施行しうるようになることを目標とする。さらに、研究を進める上で各グループにおいて特徴的な「考え方」を修得する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なる手法を習得する。 ・遺伝医学 ・ゲノム生物学 ・バイオインフォマティクス ・健康情報総合学 ・法医学 ・国際医療学 ・医学ウイルス学	OBTNE3Bと同一。
02EW431	睡眠医学特論I	1	2.0	1・2	春ABC	応談	柳沢 正史, 櫻井 武, 平野 有沙, 征矢 晋吾, 沓村 憲樹, 斉藤 毅, ラザルス ミハエル, 大石 陽, フォークトカスパー, 本城 咲季子, 櫻井 勝康, 戸田 浩史, 史 蕭逸, 阿部 高志	睡眠覚醒の謎の解明、睡眠障害治療への新しいアプローチを目指した研究についての最新の研究成果を発表の題材とし、研究内容に関する討論と総合的知識の講義を行う。履修学生自身の研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。 ・睡眠制御の分子機構 ・医薬品化合物のデザインと合成 ・睡眠中の脳の可塑性とその応用 ・睡眠におけるグリア/神経相互作用 ・睡眠覚醒の神経回路 ・中枢神経回路の構成と睡眠の機能 ・睡眠・冬眠を制御する神経回路 ・睡眠覚醒サイクルを通じた神経活動ダイナミクス ・感覚システムと本能行動の神経基盤 ・キロシヨウジョウバエを用いた睡眠制御の分子遺伝学 ・比較神経科学的に睡眠の保存性と多様性を理解する ・覚醒度低下の検知と防止 など	OBTNE41と同一。
02EW432	睡眠医学特論II	1	2.0	1・2	秋ABC	応談	柳沢 正史, 櫻井 武, 平野 有沙, 征矢 晋吾, 沓村 憲樹, 斉藤 毅, ラザルス ミハエル, 大石 陽, フォークトカスパー, 本城 咲季子, 櫻井 勝康, 戸田 浩史, 史 蕭逸, 阿部 高志	睡眠覚醒の謎の解明、睡眠障害治療への新しいアプローチを目指した研究についての最新の研究成果を発表の題材とし、研究内容に関する討論と総合的知識の講義を行う。履修学生自身の研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。 ・睡眠制御の分子機構 ・医薬品化合物のデザインと合成 ・睡眠中の脳の可塑性とその応用 ・睡眠におけるグリア/神経相互作用 ・睡眠覚醒の神経回路 ・中枢神経回路の構成と睡眠の機能 ・睡眠・冬眠を制御する神経回路 ・睡眠覚醒サイクルを通じた神経活動ダイナミクス ・感覚システムと本能行動の神経基盤 ・キロシヨウジョウバエを用いた睡眠制御の分子遺伝学 ・比較神経科学的に睡眠の保存性と多様性を理解する ・覚醒度低下の検知と防止 など	OBTNE43と同一。

02EW433	睡眠医学演習I	2	2.0	1・2	春ABC	応談	柳沢 正史, 櫻井 武, 平野 有沙, 征矢 晋吾, 沓村 憲樹, 齊藤 毅, ラザルス ミハエル, 大石 陽, フォークト カスパー, 本城 咲季子, 櫻井 勝康, 戸田 浩史, 史 蕭逸, 阿部 高志	睡眠医学分野に関する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、今後の課題について討論する。履修学生自身の研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。 ・睡眠制御の分子機構 ・医薬品化合物のデザインと合成 ・睡眠中の脳の可塑性とその応用 ・睡眠におけるグリア/神経相互作用 ・睡眠覚醒の神経回路 ・中枢神経回路の構成と睡眠の機能 ・睡眠・冬眠を制御する神経回路 ・睡眠覚醒サイクルを通じた神経活動ダイナミクス ・感覚システムと本能行動の神経基盤 ・キロシウジョウバエを用いた睡眠制御の分子遺伝学 ・比較神経科学的に睡眠の保存性と多様性を理解する ・覚醒度低下の検知と防止 など	OBTNE45と同一。
02EW434	睡眠医学演習II	2	2.0	1・2	秋ABC	応談	柳沢 正史, 櫻井 武, 平野 有沙, 征矢 晋吾, 沓村 憲樹, 齊藤 毅, ラザルス ミハエル, 大石 陽, フォークト カスパー, 本城 咲季子, 櫻井 勝康, 戸田 浩史, 史 蕭逸, 阿部 高志	睡眠医学分野に関する最新の原著論文を抄読し、研究目的、方法、結果について理解し、当該研究の意義、今後の課題について討論する。履修学生自身の研究グループを含め、複数のグループの授業に出席する。各グループのキーワードを以下に示す。I, IIでは異なるトピックスを扱う。また、自らの所属グループ以外のグループとして、I, IIで異なるグループを選択することができる。 ・睡眠制御の分子機構 ・医薬品化合物のデザインと合成 ・睡眠中の脳の可塑性とその応用 ・睡眠におけるグリア/神経相互作用 ・睡眠覚醒の神経回路 ・中枢神経回路の構成と睡眠の機能 ・睡眠・冬眠を制御する神経回路 ・睡眠覚醒サイクルを通じた神経活動ダイナミクス ・感覚システムと本能行動の神経基盤 ・キロシウジョウバエを用いた睡眠制御の分子遺伝学 ・比較神経科学的に睡眠の保存性と多様性を理解する ・覚醒度低下の検知と防止 など	OBTNE47と同一。
02EW435	睡眠医学実験実習I	3	2.0	1・2	春ABC	応談	柳沢 正史, 櫻井 武, 平野 有沙, 征矢 晋吾, 沓村 憲樹, 齊藤 毅, ラザルス ミハエル, フォークト カスパー, 大石 陽, 本城 咲季子, 櫻井 勝康, 戸田 浩史, 史 蕭逸, 阿部 高志	睡眠医学に関連する各研究グループが、日々の研究において使用している実験手法やデータ収集・解析の方法とそれらの原理、注意すべき点などについて、実践的に学び、自ら施行しうようになることを目標とする。さらに、研究を進める上で各グループにおいて特徴的な「考え方」を修得する。I, IIでは異なる手法を習得する。 ・睡眠制御の分子機構 ・医薬品化合物のデザインと合成 ・睡眠中の脳の可塑性とその応用 ・睡眠におけるグリア/神経相互作用 ・睡眠覚醒の神経回路 ・中枢神経回路の構成と睡眠の機能 ・睡眠・冬眠を制御する神経回路 ・睡眠覚醒サイクルを通じた神経活動ダイナミクス ・感覚システムと本能行動の神経基盤 ・キロシウジョウバエを用いた睡眠制御の分子遺伝学 ・比較神経科学的に睡眠の保存性と多様性を理解する ・覚醒度低下の検知と防止 など	OBTNE49と同一。

02EW436	睡眠医学実験実習II	3	2.0	1・2	秋ABC	応談	柳沢 正史, 櫻井 武, 平野 有沙, 征 矢 晋吾, 沓村 憲 樹, 斉藤 毅, ラザ ルス ミハエル, フォークト カス パー, 大石 陽, 本 城 咲季子, 櫻井 勝康, 戸田 浩史, 史 蕭逸, 阿部 高 志	睡眠医学に関連する各研究グループが、日々の研究において使用している実験手法やデータ収集・解析の方法とそれらの原理、注意すべき点などについて、実践的に学び、自ら施行しうようになることを目標とする。さらに、研究を進める上で各グループにおいて特徴的な「考え方」を修得する。I, IIでは異なる手法を習得する。 <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠制御の分子機構 ・医薬品化合物のデザインと合成 ・睡眠中の脳の可塑性とその応用 ・睡眠におけるグリア/神経相互作用 ・睡眠覚醒の神経回路 ・中枢神経回路の構成と睡眠の機能 ・睡眠・冬眠を制御する神経回路 ・睡眠覚醒サイクルを通じた神経活動ダイナミクス ・感覚システムと本能行動の神経基盤 ・キロシヨウジョウバエを用いた睡眠制御の分子遺伝学 ・比較神経科学的に睡眠の保存性と多様性を理解する ・覚醒度低下の検知と防止 など 	OBTNE4Bと同一。
---------	------------	---	-----	-----	------	----	--	--	-------------